

当院におけるノンメディカル卵子凍結の現状

道端 肇、井上朋子、市川麻祐子、松崎聖子、脇川晃子、寺脇奈緒子、姫野隆雄、
小宮慎之介、浅井淑子、森本義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】2016 年から当院ではノンメディカル卵子凍結を開始した。2023 年に東京都のノンメディカル卵子凍結に対して助成が開始して以降、複数の自治体がノンメディカル卵子凍結に対して助成をする方針を示しており、将来の妊娠に備えての選択肢として関心が高まっている。今回当院でのノンメディカル卵子凍結とこれらの卵子を利用した融解後治療成績について報告する。

【方法】2016 年 1 月から 2024 年 12 月までに当院でノンメディカル卵子凍結を希望し、卵子凍結できた 319 例、435 周期を対象として後方視的に調査した。

【結果】凍結時の平均年齢は 37.7 ± 3.1 歳、2022 年以前平均年齢 38.5 ± 2.8 歳、2023 年以降平均年齢 36.7 ± 3.2 歳、平均採卵回数は 1.36 回、採卵あたりの平均凍結卵子個数は 8.36 ± 5.94 個であった。卵子融解症例は 18 例、融解使用率は 5.6%であった。卵子融解後の生存率は 84.3% (167/198)、正常授精率 (ICSI) は 70.7% (118/167)、分割率は 95.8%、胚盤胞到達率は 56.1%、良好胚盤胞率は 32.4%、凍結卵子融解症例の採卵時平均年齢は 39.8 ± 1.6 歳、融解時の平均年齢は 42.6 ± 2.4 歳、移植あたりの妊娠率は 25.0%、症例あたりの妊娠率は 43.8%、初回卵子凍結時 40 未満の症例あたりの妊娠率 71.4%、40 歳以上の妊娠率 22.2%であった。

【考察】東京都のノンメディカル卵子凍結が開始した 2023 年前後で比較すると、有意に平均年齢は低下し若年化している。卵子凍結が、将来の妊娠・出産を保証するものではないが、年齢が若いときの卵子の方が、年齢が高い卵子よりも妊娠しやすく、より多くの若年女性が将来の妊娠に備えて選択できるようにノンメディカル卵子凍結の助成をする自治体が増えることに期待したい。また、初回卵子凍結時 40 歳未満の妊娠率は高かったが、凍結卵子の融解時の平均年齢は 42.6 歳で、年齢を重ねてからの妊娠・出産は、リスクが高くなることや凍結した卵子の使用率は 5.6%で卵子凍結を行ったものの、凍結した卵子のほとんどが使われていない現状がある。挙児希望している方が妊娠しやすい社会的な環境を整えていくことも必要であると考えらる。